

02

生産能力増強と安定供給

各事業において、効率的かつ安定的に生産を行なうための工夫や課題解決、今後の取り組みについてご紹介します。



金属チタン事業

事業部長
三戸 武士

各拠点ではフル操業が続く工場での人材確保が重要課題

航空機材料用、医療用、産業設備用として使用されるスポンジチタン、スポンジチタンを主原料とするチタンインゴット、および高純度チタンの生産を国内とサウジアラビアの生産拠点で行っています。コロナ禍で航空機向けの一時的な需要減少があり、スポンジチタンの生産が減少したものの、2022年度より回復しており、フル操業が続いています。従って、生産を続けるうえでの操業管理、安全管理の徹底が重要となっています。人材不足のなかで、工場における人材確保は大きな課題であり、技能の伝承や、作業の自動化を進めることも重要です。

ATTM社のフル操業継続と国内3,000t/年生産能力増強に注力

航空機向けを主因とする旺盛なチタン需要に対応するため、2023年12月より、サウジアラビアのスポンジチタン生産合弁会社（ATTM社）におけるフル生産体制への移行が完了し、継続操業を実施しています。国内の若松工場および茅ヶ崎工場においては、3,000t/年の生産能力増強計画を決定しており、2026年度稼働開始に向けて建設を進めています。



触媒事業

事業部長
船橋 英雄

2つの生産拠点で需要に応える DXを駆使した作業工程の自動化を急ぐ

触媒事業は、ポリオレフィン（PO）の製造に不可欠な触媒を提供する事業です。主力の「THC*触媒」は、世界のPOメーカーから高く評価されています。POの中核であるポリプロピレンは、自動車内外装や家電、包装材、食品容器、衛生・医療用品など幅広い範囲で使われ、自動車の軽量化や、リサイクル性の高さでも注目されています。現在は茅ヶ崎工場と黒部工場の2拠点で、生産設備を24時間稼働させていますが、人手不足もあり、DXを駆使した作業工程の自動化や、リスク分散のための海外製造拠点の設置も今後は重要な検討課題です。

*THC: Toho High efficiency Catalyst

生産技術の改善による増産と次期設備能力増強に意欲

当社の触媒の主な用途分野であるポリプロピレンの需要は、足元停滞していますが、中長期的には拡大が見込まれています。当事業部では、ポリプロピレンの需要回復に備え生産技術改善による触媒の生産効率化および増産に取り組んでいます。あわせて将来的な市場開拓を見据え、原料の新たな調達先の検討や次の能力増強計画を進めています。



化学品事業

事業部長
藤井 隆

独自性の高い技術力に強み 安定供給体制の構築が重要

金属チタン以外のビジネス展開を目指し、高純度酸化チタンの製造技術を電子部品材料に活かす試みが1960年代にスタートし、1999年から、積層セラミックコンデンサ（MLCC）向けの超微粉ニッケルの製造を開始しています。MLCCの大容量化・小型化の進展とともに、ニッケル粉の小粒化も進み、その過程で独自性の強い技術力が生まれ発揮できるようになりました。独自性の高さゆえに、当事業には高い供給責任が求められます。今後はBCPの充実など、安定供給体制の構築が重要な課題となっています。

MLCCの需要拡大に向け超微粉ニッケルの供給体制の強化を図る

海外の景気減速を主因に超微粉ニッケルの最終用途であるMLCC需要は調整局面に入っていますが、中長期的には需要拡大が期待されており、小型大容量MLCCに対応可能な超微粉ニッケルの供給体制を構築するため、若松工場内に新工場を建設することを決定しました。2025年度の完工および営業運転開始に向けて、建設工事および操業立ち上げを着実に進めてまいります。

